

LME
アルミ

中国の経済政策が展開を左右か

橋本健一郎氏リポート②

・アルミニウム

橋本健一郎氏リポート②

【概況】

七月前半は五月のイタリア失業率が一二・二%と過去最低だつた事、ユーロ圏失業率が一二・一%と更に悪化した事、またアメリカ失業保険申請件数が予測を大幅に下回るなどマイナス材料もあつたが、六月の米ISM製造業景況感指数が五〇・九と予測を上回った事、ECB(欧洲中央銀行)、EOB(英中央銀行)が利下げに関するコメントを発した事を好感し、LMEアルミ相場は一、八〇二ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約五七ドル上昇しての前半締めとなつた。

後半は六月の中国銅輸入が一・一%増と九ヶ月ぶりの高水準だつたこと、七月のユーロ圏PMI指数が五〇・四、米PMI指数が五三・二といずれも予測を上回るなどプラス材料があつたものの、中国の一九業界への余剰生産削減命令や全国債務調査の実行、六月の中鉱工業生産が八・九%増と予測の九・九%増を大幅下回り、米住宅着工件数が予測以下だつたなどマイナス材料から、一時、七三〇ドル近辺まで下落。ただその後七月中国製造業PMI指数が予測を上回る五〇・三と景気判断の五〇%を上回つた事を好感し、下げ幅を圧縮した。

八月三日現在LMEアルミ相場(現物後場)は一、七八〇ドルと、前半締めから二二・二ドル下落してのスタートとなつた。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比九・五%減の八〇万八五五七台

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一三・五%減の二八万四、三四四台。

◆新設住宅着工戸数

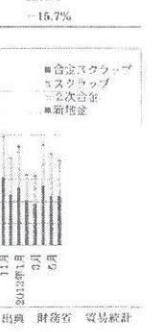
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一五・三%増の八万三、七〇四戸であつた。

◆貿易指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム地金が前年比七四・一%減の三〇t、二次合金が二〇・七%増の一、〇一〇t、スクランプが二・七%増の一萬三、〇七九t。

輸入は新地金が前年比六%減の一一万二、七三六t、二次合金が一五・一%減の七万七、二七八t、スクランプが二八・八%減の四八九t、合金スクランプは一五・七%増の二、二七三t。

	4月	5月	6月
新地金	13万4996t	11万1401t	11万2736t
前年比	-8.8%	-15.5%	-6%
二次合金	9万0763t	9万3692t	7万7278t
前年比	+3.9%	-10.9%	-15.1%
スクランプ	820t	716t	489t
前年比	+20.4%	-0.7%	-28.8%
合金スクランプ	3805t	3529t	3273t
前年比	+1.4%	-4.1%	-15.7%

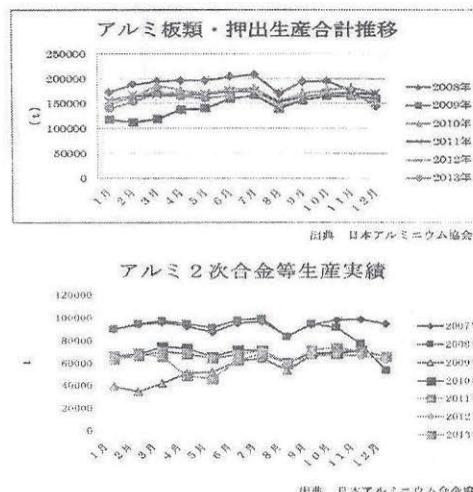


■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比五・八%減の一六万六、二六八t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・四%減の六万六、八四九tであつた。

(六面へ続く)

(四面より続く)
スクランプの国内需給依然として漂う引き締まり感



輸入は新地金が前年比六%減の一一万一、七三六t、二次合金が二〇・七%増の一、〇一〇t、八t、スクランプは二八・八%減の四八九t、合金スクラップは一五・七%増の三、二七三t。前月に続き、新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、二次合金・スクランプは国内自動車生産不振から減少との見解。

【アルミ需給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比三%増と一〇力月連続増加、分譲マンション四六・三%増、住宅二四%増と絶好調。ただ自動車は生産が一〇力月連続前年割れが続き、内需不安から不透明。

七月の国内販売台数も一三・五%減と大幅悪化。消費税増税前の駆け込み需要以外は目新しい需要増材料はなく、また来年以降の話であることから現実味に欠ける。また中国景気後退懸念や米国金融緩和縮小時期の延長のため一〇〇円を超える円安も望めず。

ただ国内生産減少による発生減、円安を背景とした原料輸出もいまだ続いている。需給の悪化は今月も続く。

【LME価格に関して】

今月は特に中国の経済政策に左右される。中国の経済政策に関しては当局や政治家の発言が割れており、その都度個別の材料にマーケットは反応している。

基本スタンスとしては環境問題を含んだ過剰生産の抑制やシャドーバンキング問題の解決などは明確化されたことから、これまでのような投機資金調達は期待できず、やや引き締め気味になる。ただ中国製造業PMIは予測を上回り、五一三と景気判断の五〇を上回ったことから今後改善する可能性もあり、そうなれば米景気の回復も相まって相場は持ち直すとの予測から、上値は六月最高値付近もう一段高い八五〇ドル。

下値は前月に続き中国HSBCのPMI(製造業景況感指数)が景気判断の五〇を割つたことから警戒感が強く、更に悪化すれば暴落する可能性があるとの予測から、直近安値付近の一、七〇〇ドル。

【見通し】
七月は、中国景気後退懸念と対策・米国金融緩和縮小時期に一喜一憂した月となつた。中国の四・六月期のGDPが七・五%増と〇・二ポイント減少したが、その対策についての当局のコメントが右往左往したことや、FRBバークナキ議長の金融緩和縮小時期についてのコメントが時期を決めない方向に変化し出したことから。
自動車生産は前年比九・五%減の一〇力月連続マイナス。国内向け一〇・八減、輸出向け生産四・五%減と共にマイナスへ。

販売の方は二力月連続二桁悪化前年比割れの一三・五%減。貨物車は前年並みだったものの、乗用車が小型二〇%減、普通一〇%減と共にマイナスだったことから。
新設住宅着工戸数は先月に続き一〇力月連続増加、前年比一五・三%増(季節調整済み前月比五%減)の八万三、七〇四戸。今月も唯一堅調な住宅関連。分譲住宅二四・三%増、マンションが四六・三%増と大幅増。ここ最近の消費マインドの改善から。消費税、住宅減税その他の政策の動向に注目。

自動車関連のアルミニウム生産は前年比〇・四%減と二力月ぶりマイナス。

○ 国内自動車生産の減少から。
○ 圧延・押出品生産数は前年比五・八%減と八力月連続マイナス。
○ 圧延に関して、缶材は六月のビール系飲料の車販売台数が一五・八%減による受注減や工コカ一減税の反動、中国・アジアへの輸出が一五・六%減だつたことから一〇・五%減だつた。輸出は新地金が前年比七四・一%減の三〇